

# 第5回 都道府県がん診療連携拠点病院

## 連絡協議会

# 情報提供・相談支援部会

平成27年6月10日(水) 13:00~16:30

国立がん研究センター国際研究交流会館 3階

# 本日の内容

## 3. がん相談支援センターの活動におけるPDCAサイクルの確保

- 1) これまでの議論の経緯
- 2) ワーキンググループでの検討について
  - (1) 活動の見える化
  - (2) 相談件数
- 3) 情報提供・相談支援部会としてのPDCAサイクル確保に向けた取り組みについて

## 4. 継続的かつ系統的な研修機会の提供について

- 1) 相談支援フォーラム・ワークショップ報告
- 2) 地域がん相談支援フォーラム・地域につなげる新企画「平成28年度募集」
- 3) 平成27年度相談員研修および国立がん研究センター「認定がん専門相談員」「認定がん相談支援センター」認定事業の運用開始について

## 5. 全体討論

## 6. その他、連絡事項

# 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 情報提供・相談支援部会設置要領

平成24年11月27日より施行

(設置)

第1条 拠点病院で実施されている情報提供および相談支援体制の機能強化と質的な向上を図ることを目的とする。また、各都道府県や地域単位での取り組みを支援するため、都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会の下部機関として、情報提供・相談支援部会（以下「部会」という。）を設置する。

(検討事項)

第2条 部会は、次の事項について、情報を共有・検討する。

- (1) 都道府県、施設単位で行われている情報提供・相談支援の取り組みに関する現状把握と分析、情報共有に関すること。
- (2) 情報提供や相談支援体制の機能強化や質的向上を果たす上で必要となる全国、地域レベルで整備すべき体制とサポート要件の整理
- (3) 現場のみでは解決が難しい施策・制度面の改善等の必要事項の整理と（連絡協議会を通じて発信することを想定した）提言に向けた素案の作成

### 3. がん相談支援センターの活動における PDCAサイクルの確保

- 1) これまでの議論の経緯
- 2) ワーキンググループでの検討について
- 3) 情報提供・相談支援部会としての  
PDCAサイクル確保に向けた取り組みについて

## 地域がん診療連携拠点病院の指定要件

### 6 PDCAサイクルの確保

(1) 自施設の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、がん患者の療養生活の質について把握・評価し、課題認識を院内の関係者で共有した上で、組織的な改善策を講じること

(2) これらの実施状況につき都道府県拠点病院を中心に都道府県内のがん診療連携拠点病院、特定領域拠点病院、地域がん診療病院において、情報共有と相互評価を行うとともに、地域に対してわかりやすく広報すること。

## IV 都道府県がん診療連携拠点病院の指定要件

都道府県拠点病院は、当該都道府県におけるがん診療の質の向上及びがん診療連携協力体制の構築、PDCAサイクルの確保に関し中心的な役割を担い、IIの地域拠点病院の指定要件に加え、次の要件を満たすこと。

→ 各都道府県拠点病院が都道府県において中心的な役割を担うことを期待されていることから、本部会において現場で活用しやすい方法の開発や各都道府県の取り組みの共有を行うことで、全国の質の向上に寄与する

# 提 案

1. がん相談支援センターの活動のPDCAサイクル確保（活動の見える化）等を検討するためのワーキンググループを発足させる
2. 職種・病院種別・地域のバランスを考慮した10人程度の人数とする
3. 部会委員より自薦・他薦により候補者を募る。構成員によっては、委員以外の有識者の意見をきくことがある
4. 12月中にメンバーとグループ長を決定する
5. 1月～5月の間に3回程度のワーキンググループを実施し、第5回部会（平成27年6月を予定）において中間報告を行う

## 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 情報提供・相談支援部会設置要領

### (ワーキンググループ)

- 第4条 部会長は、部会の円滑な運営を図るため、必要と認めるときは部会にワーキンググループを設け、グループ長及びグループ委員を指名することができる。
- 2 ワーキンググループは、グループ長及びグループ委員を指名することができる。
- 3 グループ長は、ワーキンググループを主宰する。
- 4 グループ長は、検討した結果を部会に報告し、了承を得る。

## ワーキンググループ委員推薦のお願い

- 部会委員の中から推薦（名簿参照）
- 自薦・他薦可
- 氏名、所属、推薦理由

できれば本日、遅くとも12月5日までにご返送ください。

返送先

FAX : 03-3547-8577

mail: [joho\\_sodan\\_jimukyoku@ml.res.ncc.go.jp](mailto:joho_sodan_jimukyoku@ml.res.ncc.go.jp)

# がん相談支援センターの活動のPDCAサイクル確保に向けたワーキンググループの設置

2014年12月24日委員決定のご案内

北海道	北海道がんセンター	木川 幸一様	(SW)
岩手県	岩手医科大学附属病院	三浦 史晴様	(MD)
東京都	がん研究会 有明病院	花出 正美様	(NS)
東京都	都立駒込病院	菊池 由生子様	(SW)
神奈川県	神奈川県立がんセンター	清水 奈緒美様	(NS)
滋賀県	滋賀県立成人病センター	三輪 真澄様	(NS)
岡山県	岡山大学病院	石橋 京子様	(SW)
香川県	香川大学医学部附属病院	三木 晃子様	(NS)
福岡県	九州がんセンター	藤 也寸志様	(MD) ◎
大分県	大分大学医学部附属病院	嶋川 由紀様	(NS)

◎ : ワーキンググループ長

# ワーキンググループの目的と役割

- がん相談支援センターの活動のPDCAサイクル確保のために、
- がん相談支援センターの活動の見える化について検討を行い
- 情報提供・相談支援部会として取り組むことが可能な選択肢を提案し、情報提供・相談支援部会に諮る

### 3. がん相談支援センターの活動における PDCAサイクルの確保

- 1) これまでの議論の経緯
- 2) ワーキンググループでの検討について
- 3) 情報提供・相談支援部会としての  
PDCAサイクル確保に向けた取り組みについて

### 3. がん相談支援センターの活動における PDCAサイクルの確保

- 1) これまでの議論の経緯
- 2) ワーキンググループでの検討について
- 3) 情報提供・相談支援部会としての  
PDCAサイクル確保に向けた取り組みについて

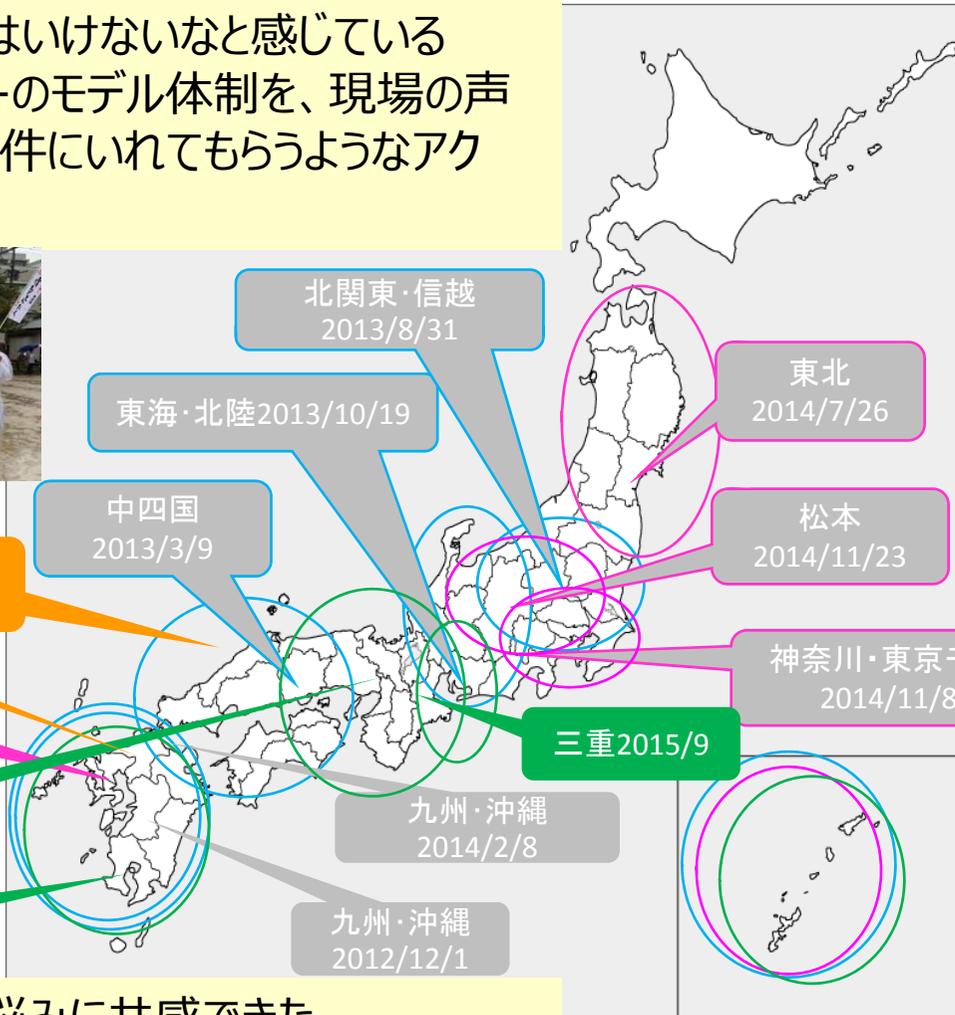
## 4. 継続的かつ系統的な研修機会の提供について

- 1) 相談支援フォーラム・ワークショップ報告
- 2) 地域相談支援フォーラム・地域につなげる新企画  
「平成28年度募集」
- 3) 平成27年度相談員研修および国立がん研究センター  
「認定がん専門相談員」「認定がん相談支援センター」認定事業の運用開始について

# 地域がん相談支援フォーラム・ワークショップ

## がん相談支援センターを地域の支援の輪につなげる新企画

- 自分たちにできることを少しずつやっていきたい
- 待っているだけではいけないと感じている
- 相談支援センターのモデル体制を、現場の声から作り、指定要件にいれてもらうようなアクションを起こしたい



- 連携のネットワークができた

- 県担当者との意見交換でき、有意義だった

- 相談員が抱える悩みに共感できた
- 同じように悩み、支えてもらえると心強く思った
- 「相談員サロン」のように感じた



# 地域がん相談支援フォーラム・ワークショップ 各地での取り組み ～H26-27年度企画～

## 地域相談支援フォーラム in 長崎 (2015/1/31-2/1)

長崎県がん診療連携協議会相談支援ワーキンググループ

## 地域相談支援ワークショップ in 島根 (2015/2/14)

島根県がん診療ネットワークがん相談部会

## 相談支援センターを地域につなげる新企画 (2015/5/3-4)

国立病院機構九州がんセンター

平成26年度  
「九州・沖縄ブロック地域相談支援  
フォーラム IN 長崎」  
開催までの経緯と実施報告



長崎大学病院 がん診療センター  
MSW 青木美帆

# 経緯(1)

1) H26年4月

地域相談支援フォーラム 相談員研修(新方式パイロット)応募

## 【企画推進体制】

長崎県がん診療連携協議会 相談支援ワーキング

がん診療連携拠点病院(長崎大学病院 長崎みなとメディカルセンター市民病院 日本赤十字社長崎原爆病院 長崎医療センター 長崎県島原病院 佐世保市立総合病院)6病院

長崎県指定がん診療連携推進病院 諫早総合病院 佐世保中央病院)2病院

## 【参加募集を呼びかける隣接県】

福岡県 佐賀県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島県  
沖縄県

# 経緯(2)

## 【テーマ(応募時)】

### ① 県行政と相談支援部門との共同体制

各県行政と相談支援実務者が一体となって取り組めるような連携のあり方を検討。

各県の先進的取り組みを発表してもらう事で、九州・沖縄各県の相談支援全体のレベルアップを図る。

### ② 相談支援の質を高めるためには、どうすればよいか？

各県の相談員が抱える共通課題を抽出し、解決策を検討。

2) H26年5月16日

採択通知 受領

3) 長崎県拠点病院・推進病院より各病院1名以上所属長推薦で  
実行委員を選出(計38名)

長崎県内実行委員 24名

# 経緯(3)

## 3) 実行委員会の開催(原則月1回)

相談支援WG(8病院) 長崎県医療政策課 離島中核病院(4病院)

第1回	6月26日	今後の方針等打合せ
第2回	7月24日	フォーラム内容について協議
第3回	8月26日	フォーラム内容について協議
第4回	9月13日	離島委員参加(離島の現状と情報共有)
第5回	9月29日	フォーラムまでの役割分担決定
第6回	10月29日	九州・沖縄各県実行委員参加(情報共有)
第7回	11月26日	プログラム内容協議
第8回	12月22日	福岡・鹿児島実行委員(座長担当)参加
第9回	1月14日	最終確認

# 準備について

- 業務別に長崎県実行委員をグループ分け(担当制)  
プログラム検討 広報 座席表 スライド アンケート作成  
懇親会 等
- 長崎県実行委員MLと長崎県外実行委員MLの活用
- 事務局設置(長崎大学病院)
- 「運営マニュアル」「スタッフ毎のタイムスケジュール」の作成  
実行委員、当日スタッフに配布
- 印刷・必要物品等は長崎県と国立がん研究センター、事務局  
で分担。
- 長崎大学病院事務部門に協力依頼し、当日の運営スタッフに  
加わってもらった。

# 運営マニュアルの例

## 目次

連絡先	.....	2	
会場	.....	4	
会場割り当て	.....	4	(別紙参照5)
フォーラム実行委員名簿	.....	5	
受付	.....	6	
受付係マニュアル	.....	7	
配布物	.....	7	
参加証	.....	7	
名札	.....	7	
クロークマニュアル	.....	8	
グループワーク席	.....		
会場配置図1日目	.....	9	
会場配置図2日目	.....	10	
誘導マニュアル(院内)	.....	11	
誘導マニュアル(駐車場)	.....	12	
誘導マニュアル(懇親会)	.....	13	
フォーラム両日共通	.....	14	
<b>別紙</b>			
プログラム1日目	.....	別紙 1	
プログラム2日目	.....	別紙 2	
運営スタッフタイムスケジュール1日目	.....	別紙 3	
運営スタッフタイムスケジュール2日目	.....	別紙 4	
会場割り当て	.....	別紙 5	
必要物品リスト	.....	別紙 6	
担当表	.....	別紙 7	
1日目グループ名簿	.....	別紙 8	
2日目グループ名簿	.....	別紙 9	
参加者名簿	.....		

キーンノートレクチャー後、質疑応答(シンポジウム形式)が始まったら青木・安藤・遠藤・本村・鍋内・向田で設置  
誘導マニュアル(院内)

・出入口は病院正面玄関・臨床講義棟入口・職員通用口(IDカード使用)  
当日は守衛室にも連絡しておき、誘導者が不在になった時間でお尋ねがあった場合の案内を依頼する。

誘導に立つ時間

- ・1日目12:00~13:15(実行委員は13:00まで)
- ・2日目8:15~9:15(実行委員は9:00まで)

・誘導担当者配置場所

- 1日目①総合案内前付近(片岡)・②時間外調剤受付前付近(川上)・③職員通用口付近(竹田)・④2階臨床講義室外玄関付近(汐除)
- 2日目①総合案内前付近(遠藤)・②時間外調剤受付前付近(本村)・③職員通用口付近(高見須)・④2階臨床講義室外玄関付近(竹田)

案内) 1F総合受付をまっすぐ進み、総合診療科前まで来たら左へ行き、時間外調剤受付の前まできたら左へ曲がって下さい。  
第3講義室前を通過し、階段を登り2Fへ



# スタッフ毎のタイムスケジュールの例

		9:00	10:00	11:00	11:30	12:00	12:15	13:00	13:10			15:00	15:10	16:00	16:35	16:50	17:00~17:30							
1月31日		第4講義室		第3講義室	第4講義室	第3講義室	座長(第3)受付(第4前)	第4講義室									病院ロビー							
		集合	会場設営・資料袋詰め		休憩		受付		フォーラム開始	各県発表			グループワーク	全体共有	講評	連絡事項	終了							
県内実行委員	濱田美由紀	9:00集合	会場設営・資料袋詰め	30分 昼休憩	最終確認	全体打ち合わせ	受付・集金	フォーラム会場内で待機			ファシリテーター		懇親会誘導		懇親会会場へ移動									
	橋本涼子						受付・集金	フォーラム会場内で待機			ファシリテーター		懇親会誘導											
	林早苗						受付・集金	フォーラム会場内で待機			ファシリテーター		懇親会誘導											
	浦山晶子						受付	タイムキーパー			タイムキーパー		アンケート回収											
	竹田昌史						会場誘導	議事録			ファシリテーター		アンケート回収											
	空閑郁子						クローク	タイムキーパー			ファシリテーター		クローク											
	野田雪美						クローク	フォーラム会場内で待機			ファシリテーター		クローク											
	高見須美子						会場誘導	フォーラム会場内で待機			ファシリテーター		名札回収											
	玉城結						座長と打ち合わせ	総合同会																
	本康剛						クローク	議事録			議事録		クローク											
	安藤真紀						受付	プロジェクター調整、パソコン設定、フリー																
	青木美帆						受付等	フリー（雑務・カメラ）									施錠確認							
	大隈輝美						最終確認・各県担当者対応						発表者席待機	発表者					施錠確認					
	川崎浩二						最終確認	全体打ち合わせ				フリー									懇親会会場へ			
	芦澤和人												挨拶	フリー										

# 九州・沖縄ブロック 地域相談支援フォーラムin長崎(1)

## 【全体テーマ】

つなげよう！がん相談支援の輪

【1日目】平成27年1月31日(土) 13:00～17:00

テーマ:がん相談支援～他県の取り組みに学ぼう～(情報交換会)

参加者数:162名

## ＜内容＞

- ① 各県からの報告(120分)
- ② グループワーク 12グループ(50分)
  - ・県レベルのがん相談院の横のつながり
  - ・がん相談支援センターの広報活動
- ③ 全体共有(35分)

# 九州・沖縄ブロック 地域相談支援フォーラムin長崎(2)

<内容(1日目の続き)>

④ 講評(10分)

若尾文彦(国立がん研究センター)

高山智子(国立がん研究センター)

※ 懇親会18:30～20:30 稲佐山観光ホテル  
94名参加

# 九州・沖縄ブロック 地域相談支援フォーラムin長崎(3)

【2日目】 平成27年2月3日(日) 9:00～12:30

テーマ:離島・がん医療空白地域の現状を知ろう

～相談者を支えるネットワークづくりいま私たちにできること～

参加者数:149名

## <内容>

### ① 離島の現状(キーノートレクチャー)(55分)

- ・屋 ます江(鹿児島県立大島病院 地域連携室 看護師)
- ・松本康行(壱岐市民病院 地域医療連携室 看護師)
- ・押渕素子(押渕医院 在宅訪問医師)
- ・出口久美子(訪問看護ステーション福江 訪問看護師)
- ・真栄里隆代(ゆうかぎの会 患者会代表)

# 九州・沖縄ブロック 地域相談支援フォーラムin長崎(4)

<内容(2日目の続き)>

② 質疑応答(30分)

③ グループワーク 12グループ(50分)

- ・治療中あるいは治療ができなくなった時の連携について
- ・患者や家族が困らないための情報提供の工夫について

④ 全体共有(40分)

⑤ 講評(15分)

田中 由喜子(あけぼの会長崎支部)

三好 綾 (NPO法人 がんサポートかごしま)

草場 真智子(乳がん患者の会「コスモス」)

高山 智子 (国立がん研究センター)





# 離島におけるがん患者の現状と がん相談専門員としての課題

平成27年2月1日(日)  
鹿児島県立大島病院  
がん相談専門員 屋ます江

# 離島がん医療の実際

老岐市民病院  
地域医療連携室  
松本泰行

# がん医療空白地域の現状 ～長崎県松浦市～



医療法人社団 壮志会 押湊医院  
押湊素子  
2016年2月1日  
地域相談支援フォーラム in 長崎

# 小離島における在宅ターミナルケアへの取り組み

—『家で死にたい』強い希望に寄り添って—

公益社団法人  
長崎県看護協会  
訪問看護ステーション福江  
出口 久美子

## がん治療と離島の課題

ゆうかぎの会

(離島におけるがん患者支援を考える会)

真栄里隆代

### 島ちゃび(離島苦)

病気で越えなくてはいけない時

豊かな海は試練の海となる。

離島では、夜間や悪天候で海を渡れず、救える生命を  
落とすことがある。

お金がないと命をあきらめてしまう

# 参加者からの意見

- 昨年より各県の取組みが進化している印象を受け、よしこちらもまたがんばるぞーと気持ちを新たにしました。(1日目)
- たくさんの気づきを実践し、効果につなげていけるよう、今後も検討しっかりしていきたい(1日目)
- 実際に患者側からの意見が知れて良かったし、今後も工夫次第でできることがまだまだあるなど感じた。(2日目)
- それぞれの立場でそれぞれの思いを話せた。その中でがん相談支援センターの役割を確認できた。(2日目)
- 相談に来られるのを待つだけではなく出向いていくことも大切だということに気づかされました。
- 多くの方の意見や現状を知ることができよかったです。明日からの相談支援のモチベーションにつながったと思います。ありがとうございました。

# フォーラム開催を通して

- 各県の取り組みを知ることで、自分たちの県での取り組みの参考になった。
- 離島中核病院(長崎県指定)にフォーラムの実行委員会から参加いただき、顔の見える関係づくり・お互いの実情を知るきっかけになった。今後、離島の実務者とどう連携していくかなど積極的に働きかけをしていきたい。
- 事務局は、事務的作業や様々な作業が多く、負担もあったが、準備段階から実行委員一人一人に役割と責任を持って動いてもらい、事務局の負担軽減にもなり、実行委員のフォーラムに対してのモチベーションアップにもつながったと思われる。

# 謝 辞

フォーラム開催に向け、ご協力いただきました国立がん研究センターの皆様、九州・沖縄各県の相談支援実務者の皆様に深く御礼申し上げます。

次回鹿児島フォーラムで皆様にお会いできるのを楽しみにしております。



# 地域がん相談支援フォーラム・ワークショップ 各地での取り組み ～H26-27年度企画～

地域相談支援フォーラム in 長崎 (2015/1/31-2/1)

長崎県がん診療連携協議会相談支援ワーキンググループ

地域相談支援ワークショップ in 島根 (2015/2/14)

島根県がん診療ネットワークがん相談部会

相談支援センターを地域につなげる新企画 (2015/5/3-4)

国立病院機構九州がんセンター

平成26年度

地域相談支援ワークショップ in 島根実施報告

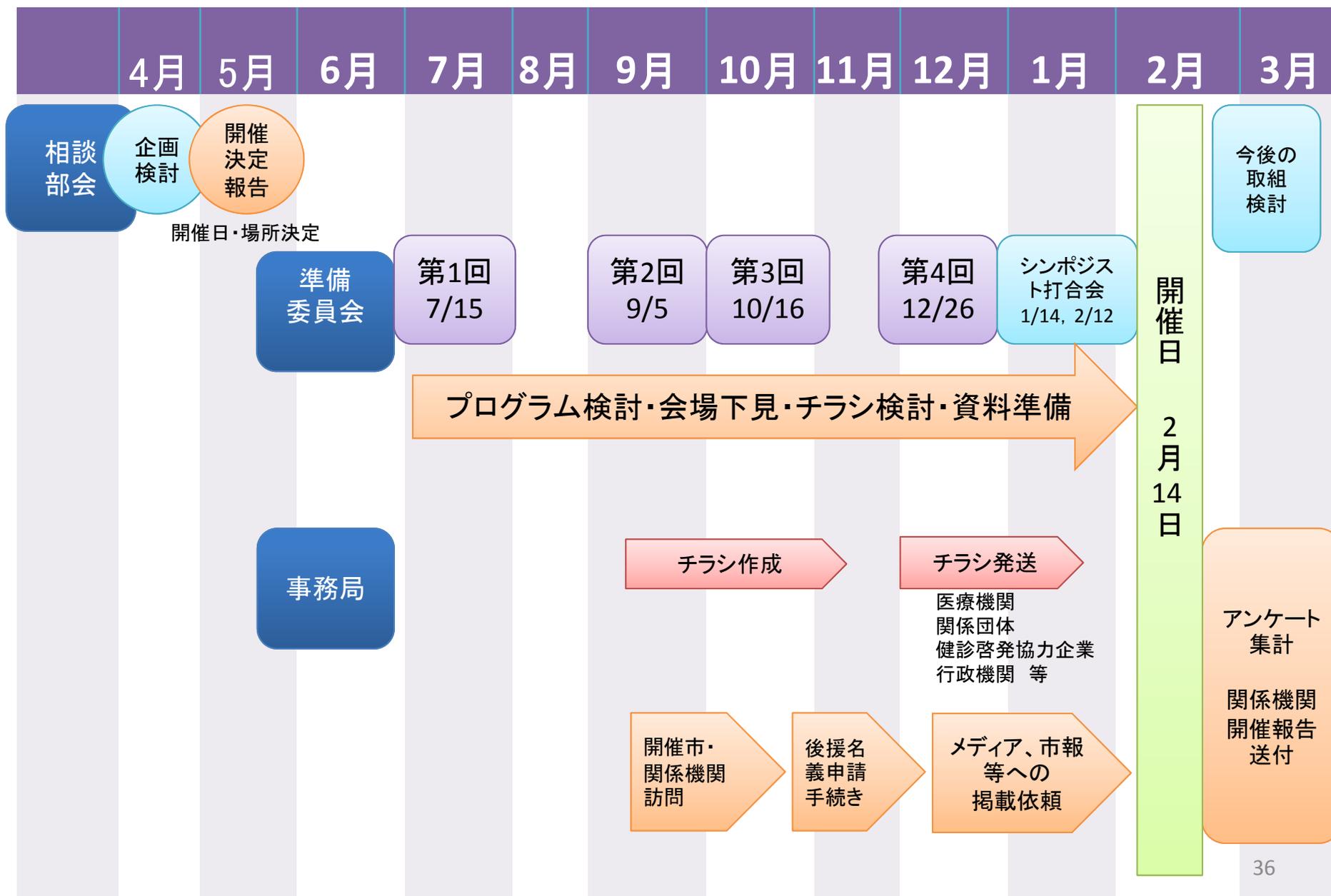


# がん患者の くらしを支える縁結び

～がんになっても安心して働き暮らせる地域であるために～

島根大学医学部附属病院  
がん患者・家族サポートセンター  
(がん相談支援センター)  
榎原 貴子

# ワークショップ開催までのスケジュール



## 準備委員会で議論になった点

- ・『島根らしさ』をどう取り入れるのか？
- ・「なぜ今、がん患者の就労なのか？」
- ・誰を対象とするのか？
- ・私たち相談員自身が就労問題を理解していないのでは？



- ・就労アンケート結果の分析が必要
- ・関係機関各々ができることを考えるためには、お互いの理解が必要



- ・中小企業が圧倒的に多い地域性
- ・開催を通じて、関係機関の連携がスタート出来れば良いのでは・・・
- ・対象者は、  
「がん患者さんの就労問題に関心のある方」

PROGRAM														
13:00 ~ 13:10	■ 開会挨拶	国立がん研究センターがん対策情報センター長 若尾 文彦 島根大学医学部附属病院長 井川 幹夫												
13:10 ~ 14:10	■ 基調講演	「働き暮らせる地域をつくる ～ がんの特色と他文脈との共通点」 講師 国立がん研究センターがん対策情報センター がんサバイバーシップ支援研究部長 高橋 都 先生 司会 島根県がん診療ネットワーク協議会 会長 鈴宮 淳司												
14:10 ~ 14:20	■ 島根県就労アンケート結果報告	島根県健康福祉部健康推進課がん対策推進室 企画員 黒崎 知 氏												
14:20 ~ 14:40	■ 休憩													
14:40 ~ 16:20	■ シンポジウム 「就労を支えるためにできること」	がん患者さんをはじめ関係機関が集まり、それぞれの立場から現状と課題を提示し今後の取り組みを考えます。 シンポジスト <table border="0"> <tr> <td>がん患者さん</td> <td>梶谷 泰子 さん</td> </tr> <tr> <td>国民宿舎さんべ荘 専務取締役</td> <td>田平 勉 さん</td> </tr> <tr> <td>坂根社会保険労務士事務所 社会保険労務士</td> <td>坂根 親雄 さん</td> </tr> <tr> <td>島根大学医学部附属病院 腫瘍センター長 医師</td> <td>鈴宮 淳司</td> </tr> <tr> <td>島根大学医学部附属病院 がん専門相談員</td> <td>横原 貴子</td> </tr> <tr> <td>益田赤十字病院 がん専門相談員</td> <td>渋谷 功志</td> </tr> </table> オブザーバー 国立がん研究センターがん対策情報センター 高橋 都 先生 司会 島根県立中央病院 がん専門相談員 景山 晴美 松江赤十字病院 がん専門相談員 奥 公明	がん患者さん	梶谷 泰子 さん	国民宿舎さんべ荘 専務取締役	田平 勉 さん	坂根社会保険労務士事務所 社会保険労務士	坂根 親雄 さん	島根大学医学部附属病院 腫瘍センター長 医師	鈴宮 淳司	島根大学医学部附属病院 がん専門相談員	横原 貴子	益田赤十字病院 がん専門相談員	渋谷 功志
がん患者さん	梶谷 泰子 さん													
国民宿舎さんべ荘 専務取締役	田平 勉 さん													
坂根社会保険労務士事務所 社会保険労務士	坂根 親雄 さん													
島根大学医学部附属病院 腫瘍センター長 医師	鈴宮 淳司													
島根大学医学部附属病院 がん専門相談員	横原 貴子													
益田赤十字病院 がん専門相談員	渋谷 功志													
16:25 ~ 16:30	■ 閉会挨拶	島根県がん診療ネットワーク協議会 会長 鈴宮 淳司												

シンポジウムでは・・・

☆がん相談支援センター相談員の立場から

☆就労継続されている患者さんの立場から

☆企業の立場から

☆社会保険労務士の立場から

☆医師の立場から



相談支援センターとして

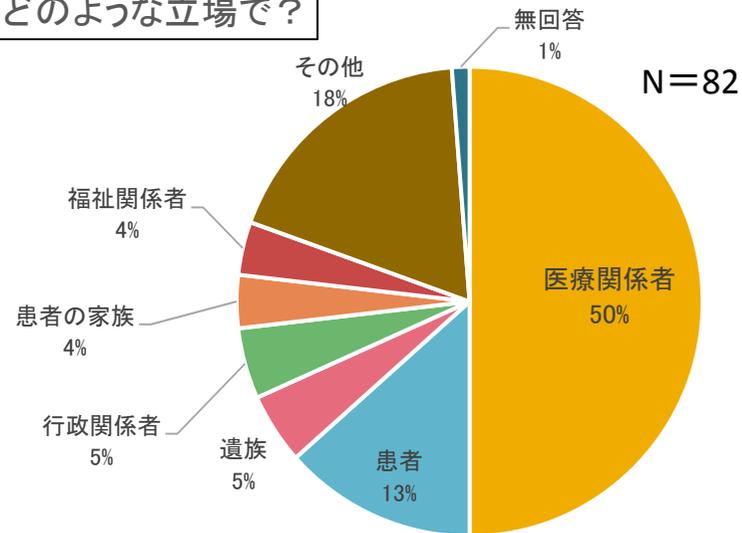
・院内・外への発信

・患者さん・家族のみならず、企業と医療者をつなぐ窓口 to ...

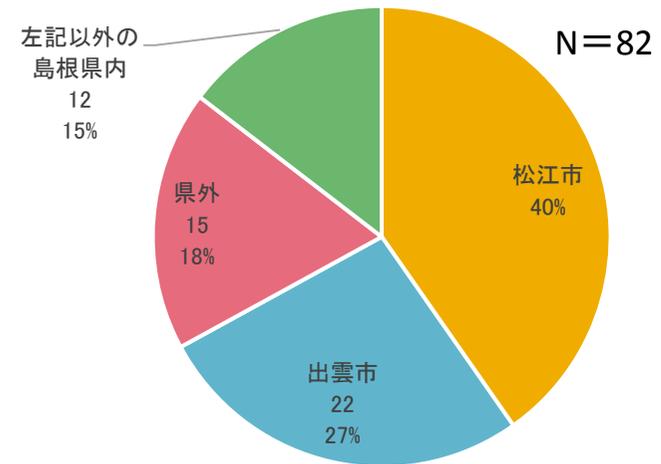
開催結果 参加者:129名(医療従事者:67名 企業・行政37名 一般25名)

来場者アンケートより

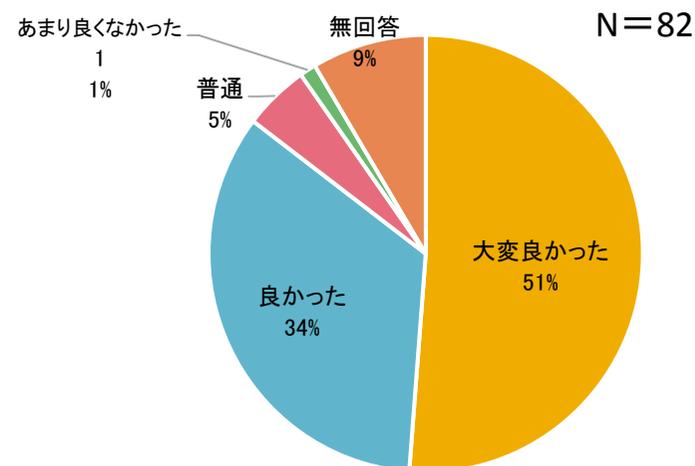
どのような立場で?



どちらからお越しですか?



ワークショップはいかがでしたか?



## 来場者アンケートより(抜粋)

☆がん患者の就労支援を支えるためには、企業の理解を得るべき。医療者、企業、地域、患者とそれぞれの立場で出来ることを検討していく事が大切だと感じた。

☆障害、病気等と向き合いながら仕事をする就労に向けてハローワークでもチーム支援を進めている。本人、企業、医療機関、支援者それぞれの機関がその専門性、強みを生かしつつ今後も支援していきたいと思う。

☆行政の関わりがキーポイントだと思う。

☆治療中及び復職に向けての環境整備、就労体制の充実を図っていくことが、患者さんの生きる希望につながると痛感した。アンケート報告にあった従業員規模10人未満の企業においては特に課題が種々、また山積していると思った。

☆いろいろな立場からの話を聞くことができ良かった。自分に何が出来るか考えていこうと思う。

来場者アンケートより(抜粋)

☆問題（個別）を聞きたかったし、それに対する対応も聞きたかった。

☆島根の現状課題について深められず感が否めず残念。きれいごとよりも本音、悩める実態を語り合い考えたかった。

☆多くの関係機関との連携だけでなく、相談支援センター内でも出来ることから取り組んでいけたら良いと思った。

☆がん治療中、治療後であっても人の体力に応じて就労は可能であるということ全国の人々、会社などに知らせ、広報することが大切だと思う。

☆医療者としてやらなければならないことが明確になった気がする。まだまだ先は発展しなければいけないと思うが、まず自分が出来ることをしていこうと思う。

## 相談部会今年度の取組として

☆就労支援に特化した院内周知のためのリーフレット作成

☆企業向けリーフレットの作成協力

☆ハローワークとの連携



『島根モデル』の発信を目指して

# 地域がん相談支援フォーラム・ワークショップ 各地での取り組み ～H26-27年度企画～

地域相談支援フォーラム in 長崎 (2015/1/31-2/1)

長崎県がん診療連携協議会相談支援ワーキンググループ

地域相談支援ワークショップ in 島根 (2015/2/14)

島根県がん診療ネットワークがん相談部会

相談支援センターを地域につなげる新企画 (2015/5/3-4)

国立病院機構九州がんセンター

# 「がん相談支援センターを地域の支援の輪につなげる新企画」 「博多どんたく」参加報告

第54回 福岡市民の祭り

博多どんたく

港まつり

祝うたマ!!

まつりで創ろう、よかまち福岡!

2015  
5月3日(日)祝 / 4日(月)祝

主催 福岡市民の祭り振興会  
〔福岡市/福岡商工会議所/松野 福岡観光コンベンションビューロー〕

どんたくホームページURL <http://www.fukunet.or.jp/dontaku> 5月3・4日 振興会本部 宛092-413-2070  
5月2日まで 福岡市民の祭り振興会事務局 宛092-441-1170



九州がんセンター がん相談支援センター 竹山由子

## 平成27年度「がん相談支援センターを地域の支援の輪につなげる新企画」応募用紙

<p>目的・意義</p>	<p>目的: 国民(主に福岡県の住民)に、「博多どんたく港まつり」の場を利用して、「がん相談支援センター」の存在を広く周知する。</p> <p>意義: 福岡県でも、「がん相談支援センター」の市民への周知度は低い。まず、「がん相談支援センター」というものがあるということを市民に知ってもらうためには、<b>2日間で約200万の人を動員する地域に根差した「博多どんたく港まつり」の場を活用する意義は大きい</b>と考える。</p>
<p>対象とする参加者層と(そのセグメントを対象とした)理由</p>	<p>対象は、「博多どんたく港まつり」観光の福岡住民及び全国からの観光客。</p> <p>あらゆる市民が参加し、全国から観光に訪れる祭りである。がんに対しての情報を求めている市民にとっては、興味をひき、大きく認知されるのではないかと考える。</p>
<p>想定しているプログラム構成とその理由</p>	<p>H27年5月3日・4日に開催される福岡の祭り「博多どんたく港まつり」に参加、パレードを通して「がん相談支援センター」の周知を図る。またどんたく広場にて、がん相談支援センターのチラシを配布・がん相談支援センターについての説明を行う。</p> <p>「がん相談支援センター」の横断幕と法被で福岡市内をパレードするだけでも住民の目を引き、「がん相談支援センターってなーに？」という意識付けにつながると考えたため。</p>
<p>企画推進体制</p>	<p>九州がんセンターがん相談支援センター</p>
<p>予算(概算)</p>	<p>100万円</p>
<p>国立がん研究センターの支援内容</p>	<p>マスコミへの広報 横断幕や法被などのデザイン作成</p>
<p>開催希望日</p>	<p>第一候補: H27年5月3日 (想定している会場: 福岡市中心部のパレードおよび博多大丸パサージュ広場) 第二候補: H27年5月4日 (想定している会場: 福岡市中心部のパレードおよび 博多大丸パサージュ広場)</p>
<p>地元のメディア・報道関係者等の協力・後援を得られる可能性</p>	<p>福岡県及び九州のがん診療連携拠点病院が協力して「がん相談支援センターの周知活動」を行うということに関しては、地元メディアの関心は高いと思われる。ゴールデンウィーク中、国内最高の人出がある祭りで、報道は必ずなされるイベントである。事前に新聞社やテレビ局への連絡も行う。</p>
<p>その他: 当該企画の特徴として アピールしたいこと</p>	<p>研修を受けたがん相談員が正しい情報を提供してくれる、『がん相談支援センター』という部署が、がんの拠点病院には設置されていて、「誰でも無料で利用できるのも気軽に相談してほしい、がんになっても決して一人で悩まないでほしい」というメッセージを住民に届けたい。九州・沖縄ブロックがん相談支援フォーラムで活動した九州各県の相談員に声をかけることで、(福岡県だけでなく)九州全域に「がん相談支援センター」があることも発信できる可能性もある。</p>

# どんたく参加へ向けての活動内容

## ◆ どんたくパレードへのエントリー

- ・経験がなく、どのように進めていいのかわからなかった。
- ・4月にならないと、参加できるものなのかどうかもはっきりしない。

- ① どんたく事務局への事前の挨拶
- ② 議員への働きかけ

## ◆ 相談ブース開設に向けて

せっかく全国から集まってもらうのに、パレードだけではもったいない。  
相談ブースを開設できないか。

- ① 博多大丸パサージュ広場への交渉(人通りが多い・雨が降っても大丈夫)  
「お祭りとはぐわんはそぐわないのではないか」
- ② 行政への交渉
  - \* 中央区役所(警固公園使用に関して)  
「そういう趣旨なら是非協力したい。毎月利用してもらってもいいですよ。」
  - \* 福岡市への共催依頼
    - メディアへの働きかけ
    - 市政便りへの掲載

## ◆国立がん研究センター

せっかくなので、全国からがん相談支援センターのキャッチコピーを募集して、法被・横断幕などにいれこみましょう。

全国から57コピーが寄せられ、最終的に6つにしぼり、投票(105)してもらった。

- 1 がんと向き合う あなたのための がん相談支援センター
- 2 がんのこと 一人で悩まず話してね あなたに寄り添う がん相談支援センター
- 3 あなたのそばに がん相談支援センター
- 4 がんのことなら あなたのまちの がん相談支援センター
- 5 知りたいこと、困っていることはありませんか？ がん相談支援センター
- 6 あなたを支える情報があります がん相談支援センター

なななんと、イメージソングがあったんです。  
パレードでは使用できなかったけど、ブースではこの曲に励まされました。

感謝をつなぐ。未来につなぐ。



サンキューバトン

**Thank You Baton**

全国がん登録PRキャンペーンサイト

## その他の準備

### ◆パレード

- ・車の手配
- ・参加者の衣装の検討
- ・プラカードなどの検討
- ・雨の時にどうするか

### ◆ブース

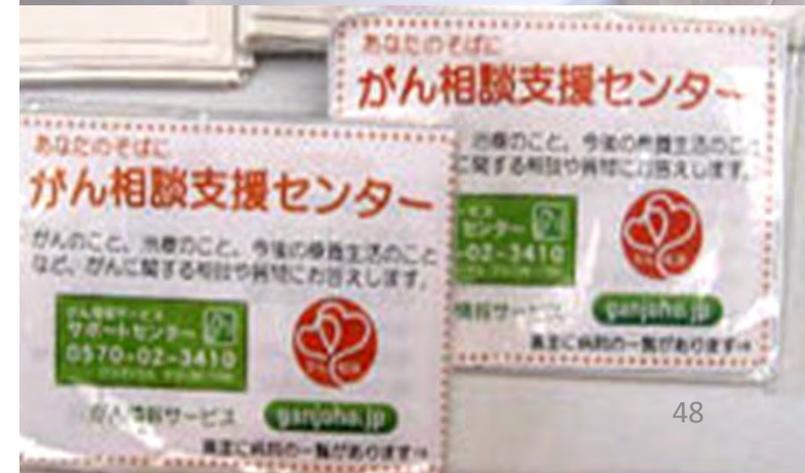
- ・ブースのレイアウト検討
- ・パネルに全国の相談支援センターの地図を添付した。

### ◆配布物

- ・配布資料の準備(主に国がんから)
- ・ティッシュペーパー(中にがん相談の電話番号と福岡の拠点病院一覧が入ったもの。これは、九州がんセンターの主に看護部長室が準備)
- ・風船の手配(がん相談支援センターロゴ入り)

### ◆九州がんセンターボランティア募集

- ・当日の役割分担
- ・そろいのTシャツ作成









全国からがん専門相談員が66名参集。  
九州がんセンターのボランティアも含めると、2日間で120名のどんたく隊でした。



## 博多どんたくに がん専門相談員 全国から集まる



5月3日、全国から集まったがん専門指導員と九州がんセンターの職員、1000人が雨の中をパレード。がん相談支援センターをアピールした。初の試みだという。発案は九州がんセンターの藤也寸志副院長。成功すれば全国の祭りに参加しようというアイデアに賛



同の声が集まり、東京の国立がん研究センターと九州がんセンターに本部を置いた。パレードだけでなく、PRブースもエルガーパサージュ広場と警固公園に設けた。事務局を担当した九州がんセンターの竹山由子看護師長は、「お祭りとは、がんはそくわないので、でも草の根としての一歩になったと思う。全国に広がればいいですね」と話していた。

上の写真：土砂降りの中を元気にパレード。下右：がん相談を担当した皆さん。下左：手前真ん中から時計回りに、宗像美緒（済生会福岡総合病院がん専門相談員）、阿比留典子（同）、茅原史典（NPO法人ハンキャンジャパン・ボランティア）、伊藤敬子（徳山中央病院がん専門相談員）、恵口恵（飯塚病院診療情報管理室マネジャー）、藤也寸志（九州がんセンター副院長）。

もらおうと、福岡市・天神に相談コーナーが3、4の両日設置された。相談員たちは、街頭で風船やパンフレットを配ってPRした。写真。

国立病院機構九州がんセンター（福岡市南区）などが主催。支援センターは県内の17病院に設置され、専門の研修を受けた看護師やソーシャルワーカーが相談員を務めている。治療実績のある病院の紹介やセカンドオピニオンの求め方などを伝えたり、患者の家族の悩みを聞いたりしている。センターのある病院の患者に限らず、誰でも無料で相談できる。

九州がんセンターの相談員竹山由子さん(52)は、「がんで悩む人も多い。まず相談支援センターがあることを知ってほしい」と話している。がん情報サービスサポートセンター（平日午前10時～午後3時） 〓 (0570) 023410。

### がん相談センター 存在もっと知って

#### 福岡市で街頭PR

がん治療の情報提供や相談に応じる「がん相談支援センター」の存在を知って



## 患者さんの意見(患者会代表)

- ◆ 医療者が(こうしたPR活動を含めいろいろと患者のために)動いてくれているのがわかり、それが患者にとってはとても心強いものです。  
患者にとって、実際には相談するまでが大変です。相談しようという気持ちになれない。だからこそ、まずはがん相談支援センターの存在を伝えることが大事だと思います。  
NHKの夕方6時のニュースでも見ました。皆さんの熱意が伝わりました。  
私たち患者も、とっても有り難いです。来年も是非、出場なさってください。
- ◆ 私たち患者にとっては、命綱のようながん相談支援センターなのに まだまだ周知されていないのはもったいないことです。  
この度の「街に出る企画」は素晴らしかったですね。  
来年もどうぞいらしてください。





## この企画に取り組んでみて

- ◆ やって良かった
- ◆ 全国から自前で駆けつけて、がん相談支援センターのPR活動を一緒にやろうとしてくれる相談員の熱意はすごい  
私たちには心強い仲間がいる
- ◆ がん相談支援センターを知ってもらうためには、外に出て広報しないといけないのでは・・・
- ◆ 一度きりではなくて、市民の頭にインプットされるまで、継続して行うことが大切である  
(福岡のがん診療連携拠点病院が、幹事を持ち回りで行うことができればBEST・・・)
- ◆ 続けたいけど、予算は？病院の理解は？マンパワーは？  
まだまだ悩みは続きそう・・・でも、どうせ悩むなら前向きに悩もう！

皆さまのご協力に感謝致します。  
ありがとうございました。



九州がんセンターがん相談支援センタースタッフ一同

## 4. 継続的かつ系統的な研修機会の提供について

- 1) 相談支援フォーラム・ワークショップ報告
- 2) 地域相談支援フォーラム・地域につなげる新企画  
「平成28年度募集」
- 3) 平成27年度相談員研修および国立がん研究センター  
「認定がん専門相談員」「認定がん相談支援センター」認定事業の運用開始について

# 地域相談支援フォーラム・地域につなげる新企画 平成28年度企画募集

国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策情報センター  
がん情報サービス ganjoho.jp

このサイトの使い方 お問い合わせ サイトマップ

一般の方へ 医療関係者の方へ がん診療連携拠点病院の方へ

がん診療支援 研修・セミナー 院内がん登録 がん相談支援センター 都道府県拠点病院連絡協議会

TOP > がん相談支援センター > 企画公募型フォーラム・ワークショップ > 平成28年度 > 地域相談支援フォーラム（地元開催方式）ならびに「がん相談支援センターを地域の支援の輪につなげる新企画」共催団体募集について

平成28年度

## 地域相談支援フォーラム（地元開催方式）ならびに「がん相談支援センターを地域の支援の輪につなげる新企画」共催団体募集について

更新日：2015年05月27日 [更新履歴] 掲載日：2015年05月27日

[【募集するプログラム】](#) [【参考情報】](#)

国立がん研究センターがん対策情報センターでは、既に各都道府県において周知されている新たな整備指針（平成26年1月10日付け健発0110第7号）の通知内容を踏まえ、より地域のニーズに合致し、また系統的・継続的な研修の実施やより効果的な広報・周知活動を支援するため、「地域相談支援フォーラム（地元開催方式）ならびに「がん相談支援センターを地域の支援の輪につなげる新企画」を公募します。下記（1）（2）あわせて2件程度を採用予定です。

**【募集するプログラム】**

1) 「地域相談支援フォーラム（地元開催方式）」の相談員研修  
【応募の条件】

- ・「都道府県がん診療連携協議会」あるいはその傘下の「相談支援専門部会」（あるいはこれに該当する担当者連絡会議等）を応募主体とし、部長名義で応募すること。
- ・プログラムの開催時期：2016年4月～2017年2月
- ・企画の選考にあたっては書類審査に加えてヒアリングを行う場合がある。

企画の実施時期：  
2016年4月1日～  
2017年2月28日

応募期限：  
2015年8月31日（必着）

選考ヒアリング：  
2015年9月11日夕刻予定

採否の連絡（予定）：  
2015年9月末日ごろ

## 4. 継続的かつ系統的な研修機会の提供について

- 1) 相談支援フォーラム・ワークショップ報告
- 2) 地域相談支援フォーラム・地域につなげる新企画  
「平成28年度募集」
- 3) 平成27年度相談員研修および国立がん研究センター  
「認定がん専門相談員」「認定がん相談支援センター」認定事業の運用開始について

# 国立がん研究センターの『認定更新コース』を用いた継続的かつ系統的な研修について

## ●質問（国立がん研究センターがん対策情報センター）

「都道府県拠点が実施する研修の一部（最新の知識更新）として、国立がん研究センターの認定更新コースを利用する場合は、継続的かつ系統的な研修を行ったとみなされるということでしょうか。」

## ●回答（厚生労働省健康局 がん対策・健康増進課）

「都道府県がん診療連携拠点病院が、その病院独自の方針として、各都道府県内の地域がん診療連携拠点病院等に対する研修の一部として、国立がん研究センターの認定更新コースを利用しつつ継続的かつ系統的な研修を行うという場合、継続的かつ系統的な研修を行っているとみなして良いと考えます。」

都道府県がん診療連携拠点病院が、その病院独自の方針として、各都道府県内の地域がん診療連携拠点病院等に対する研修の一部として、国立がん研究センターの認定更新コースを利用しつつ継続的かつ系統的な研修を行うという場合、継続的かつ系統的な研修を行っているとみなされます。

# がん専門相談員の育成

H27年度～

## 相談支援認定事業（相談員）

### 現行 | 変更案

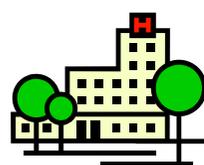
1回受講するだけで、習得度の確認、知識の更新ができていない



受講希望者の増加により  
研修の供給不足



がん診療連携  
拠点病院



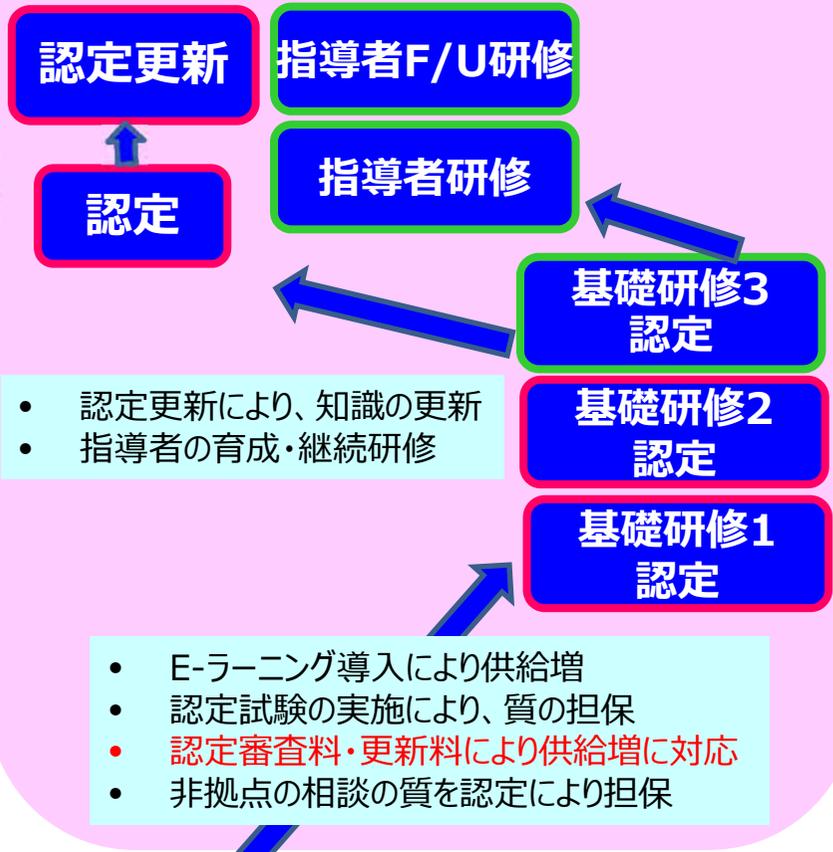
都道府県  
指定病院など



従来通り、  
研修受講  
↓  
研修修了

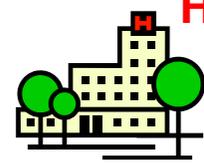


がん診療連携  
拠点病院



## 相談支援認定事業（施設）

H28年度～



都道府県  
指定病院など



施設認定による質の担保

- 集合研修
- E-ラーニング
- 書類審査
- 有償

# 認定がん専門相談員の 認定・認定更新に必要な研修

## I 群

基礎研修 I・II / 継続研修 (E-ラーニング)

## II 群

基礎研修 III

## III 群

都道府県、都道府県拠点病院、都道府県の協議会や部会の主催によるがん専門相談員のための研修

各都道府県拠点からご報告いただいた既開催分については、7月上旬に「認定委員会」の審査結果を通知 → 公開予定

## IV 群

III 群には該当しないが、がん専門相談員に必要な知識・技術の習得に寄与する研修

7月上旬に「認定委員会」の検討結果を踏まえたリスト → 公開予定

# 認定がん専門相談員 認定がん相談支援センター

## 認定がん専門相談員

申請受付：2015年12月1日～12月21日

## 認定がん相談支援センター（来年度より）

申請受付：2016年4月1日～7月末日

いずれも募集要綱をご参照ください

<http://www.ncc.go.jp/jp/cis/project/certification/index.html>

# 総合討論

## 7. その他、連絡事項

### ■ 平成27年度 第6回情報提供・相談支援部会

日時：**H27年12月8日（火） 13-16時30分 予定**

場所：国立がん研究センター国際研究交流会館3階

- 都道府県拠点病院の役割など、部会で扱うべきご提案・意見等については、下記までお願いします。

(資料7)

- 情報提供・相談支援部会事務局
- FAX : 03-3547-8577
- mail: [joho\\_sodan\\_jimukyoku@ml.res.ncc.go.jp](mailto:joho_sodan_jimukyoku@ml.res.ncc.go.jp)